

つぶやき



今こそ情報交換・情報共有の大切さ♪

横浜市教職員組合 中村 一樹

教員生活の約半分にあたる10年間、特別支援学校で特別支援教育コーディネーターとして相談業務を担わせていただきました。主な仕事は、大きく二つに分けられます。一つは校内支援で、「児童生徒支援や家族支援での教育相談」と「関係機関との連携」になります。

もう一つは、センター的機能で「地域の小学校や中学校などの教育相談や巡回支援、研修の提供」になります。今回は、校内支援についてつぶやきたいと思います。

校内支援で一番の心がけていたことは、当たり前聞こえるかもしれませんが、子どもたちが学校や地域の活動に「参加」できるように支援することです。毎日、元気に登校したり、安心して授業を受けたりできるように「学校—家庭—地域の福祉機関・医療機関など」と情報交換・情報共有を大切にしてきました。一言でいうならば、「気になる児童生徒や家族に予防的にかかわり、生活のベースラインが維持できるように環境調整してきたかなあ〜」と思います。

そのためには、子どもの成長に繋がるいい情報も介入が必要な情報も早めに入ってくるネットワーク作りが重要です。毎日「可能なかぎりすべての児童生徒に声をかけ、連絡帳を読む」、「担任の先生と一言でもやりとりをする」、「来校された保護者には子どもの今がんばっていることを伝える」を目標にしていました。続けるのは意外と根気がいることでしたが、そのおかげで、校内

で良いエピソードは更に般化できたり、悪いエピソードは、問題が大きくなる前に対応できたりで、効果的な児童生徒支援・家族支援に繋がったのかなあと考えています。

それでも…児童生徒の行動上の問題や家庭でのネグレクト、強い要求の保護者とのかわりなどでうまくいかないことも当然ありました。仕事の「楽しさ」よりは校内・校外でのケース会議で関係機関の支援者の方々にも相談しながらなんとか困難さを軽減・解消していくことに「やりがい?」、「使命感?」を見いださないと「やりきれないなあ〜」という思いでやってきたケースもありました。無力感や未熟さなどをつきつけられる場面も多々ありましたが、時々やってくる周囲の人たちの優しさや心遣い、励ましのおかげで相談業務を続けられたのかなあと思っています。

現在、コロナ禍で見通しがもちづらい制限のある生活の中で、先生たちは心もからだもいっぱいになりながら子どもたちや保護者などと向き合っているのではないかと思います。時間がないのは、承知のことですが、そんなときこそ、意識的意図的にちょっとした隙間の時間で情報交換や情報共有、時には自分が困っていることの相談ができるといいかなあと思っています。きっと、小さな積み重ねがクラスや学年、学校、そして何より子どもたちの「参加」に繋がる良い循環を生み出すのではないかと考えています。